入選

— 高校生の部 —

「読解力は生き抜く力」

座間耀永さん

推　し　本：『社会に出るあなたに伝えたい
なぜ、読解力が必要なのか？』
著　：池上彰
推したい相手：人生に悩めるすべての人へ

「読解力は生き抜く力」　座間耀永

読解力とは、ずばり「生き抜く力だ」。と教えてくれたこの本に目から鱗が落ちた。これは、今、人生に悩めるすべての人のバイブルとなる本だ。「読解力」と言われたら、たいていの人は、国語のテストで「線の部分の箇所について、作者が言わんとしていることは何ですか。20字以内で書きなさい。」と言ったような問題と解答を浮かべるのではないだろうか。読書は好きだが、現代国語の問題が大嫌いな私は、この本に、「そうだ。そうだ。」と共感することしきりであった。だいたい、筆者が考えていることなど理解することなど考えていたら、本なんか面白くない。もちろん、時代背景や筆者の生い立ちなど知っていた方が読書の深みは増す。だが、テスト問題に関して言えば、時々何を求められているかわからない。この本を読むと、真の読解力とは、状況を理解し、相手が何を言わんとしているか推し測り、ひいては相手がわかりやすいようにこちらの思っていることを伝える力に他ならない、と知ることができる。一方的な能力ではなく、双方向のコミュニケーションだ。これは、「忖度」や「駆け引き」、「交渉」といったものとは全く異なる。だいたい、最近、忖度という言葉が流行して、相手の気持ちを推し測ることが美徳とされるようになってきているが、自分の意志はどうなるのか？忖度は、何やら一方通行のコミュニケーションに感じる。駆け引きはまさに、あくまで自分の意志を通すための手段だし、交渉も譲歩が入ったにせよ、意志を通すための手段。だが、読解力は双方向性であり、共にウィンウィンになるコミュニケーションである。コロナ時代を経た私たちはコミュニケーションの主な手段が、SNSになっている。インスタを交換することは、さながらビジネスマンの名刺交換と同じで、どんどんネットワークが広がる。投稿やストーリーズで発信することもあるが、DMでチャットをすることが多い。文面は短く、絵文字も多い。これは楽しい一方で、語彙力の低下や、斜め読みの癖をつけることになり、読解力は著しく低下する、という現実を目の当たりにしている。「やばっ」という一言で、ポジティブな表現もするしネガティブな表現をすることもある。一歩間違えば、誤解が誤解を生む。しかしながら、もし読解力があれば、発信者

が言わんとしていることを汲み炎上は起こらない。つまり、ネット文化は、読解力が無いと事故を誘発する恐れがある。この本にはそういった具体例もあり、自分も身が引き締まる思いがある。実際にネットの炎上で自殺に追い込まれた人もいる世の中。正しく、相手の言わんとしていることを理解することが求められる。私が一番共感し、ぜひ、世の中の人にこの本を読んで欲しいと思った箇所は、「読書が導いてくれる世界」という頁だ。様々な本を読むことで、ヒーローにも悪役にもなれる、ということは、言い換えれば、いろいろな人の気持ちを知ることができることで読解力が高まるということではないか？以前、私は、兵庫県豊岡市の前市長の講演を拝聴した際、小学校に演劇の時間を取り入れていることを知った。「いじめっこといじめられっこを演じる。」ことで、互いを理解をすることを小学生が学ぶ。その教育を経て、いじめ率が下がったという。つまり、相手を理解するために本を読むことで、読解力が自然と高まる、ということと結びつくと思うのだ。日本は自殺大国で毎年３万人の人が自らの命を絶つという。本を読み、読解力を高めれば、苦しんでいる自分を理解し、また苦しんでいる他人を理解し、助けることもできるのではないだろうか。活字離れが進んでいるというが、この本であればわかりやすく、また頁数も少なく手に取れる。難しい本で学ぶより先に、実用的なこの本を読んでお互いを理解し、助け合いたい。お互いを理解し尊重できる世の中にするために、この本をすべての人に薦めたい。